

大分市歴史資料館 令和6年春季テーマ展示 開催要項

1. 展覧会名 「大分と蹴鞠」

2. 趣旨

日本の伝統文化「蹴鞠」と世界中で愛される「サッカー」。ともに足を使って競うという共通点を持つ2つの球技は歩んだ歴史こそ違うものの、現代でも人々に親しまれています。

戦国時代の豊後では大友氏が蹴鞠を行い、21代大友宗麟はその名手として知られています。また、江戸時代には杵築や日田で蹴鞠が行われていた記録が残っています。近代化以後も、明治天皇によって蹴鞠保存会が設立されるなど、今に残る日本の伝統文化の1つとなっています。

一方、日本サッカーの歴史は1873年にイギリス軍人が日本人にサッカーを教えたことにより始まります。その後学生スポーツとして広まり、女学校でも運動会の種目として実施されています。人気の高まりとともにプロ化が進み、サッカーは今では屈指の人気を誇るスポーツとなっています。大分では、ワールドカップの招致とともに熱が高まり、1994年に大分フットボールクラブが設立されています。

今回の展示では、蹴鞠とサッカーの歴史を通史で解説しながら、両者がどのように大分で受容され発展してきたかを紐解きます。また、誕生から75周年を迎えた大分県サッカー協会、30周年を迎えた大分トリニータに協力をいただき、その歩みを紹介します。

3. 会期 令和6年3月2日（土）～5月26日（日）

4. 会場 大分市歴史資料館 テーマ展示室

5. 展示構成

第1章 蹴鞠の文化と大分

蹴鞠の歴史とルール、大分での受容について紹介していく。

展示品；大友義長条々事書 追而書（複製）、蹴鞠条々（土井家文書）、都林泉名所図会など

第2章 日本サッカーの歩みと大分

日本サッカー史と大分県の関係性について紹介していく。

展示品：戸外遊戯法一名戸外運動法、日本蹴球協会章、ワールドカップ大分宣言など

第3章 設立30周年大分トリニータ

クラブ設立30周年を迎えた大分トリニータのこれまでの歴史について解説していく。

展示品：ヤマザキナビスコカップ優勝トロフィーなど

6. 後援（予定、名義後援含む）

株式会社大分フットボールクラブ、一般社団法人大分県サッカー協会、大分合同新聞社、NHK 大分放送局、OBS 大分放送、TOS テレビ大分、OAB 大分朝日放送、J:COM 大分ケーブルテレコム、エフエム大分、月刊・シティ情報おおいた

7. 管理責任者 大分市歴史資料館 館長 植木和美